

保育指導案の形式と内容に関する考察 —保育指導案の統一の必要性—

田中 敏明^{*1}・安東 綾子^{*2}

^{*1}九州女子短期大学子ども健康学科 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

^{*2}中津市立今津小学校 宇佐市下時枝671-1 (〒879-0316)

(2015年11月12日受付、2015年12月17日受理)

要 旨

現在、幼稚園、保育所などの保育現場や保育者養成校、保育雑誌などで用いられている保育指導案には多様な形式があり、基本的には3つのタイプに分類することができる。それぞれの特徴と、その歴史的背景について考察する。さらに、保育指導案に記載される幼児の実態、ねらい、内容などの書き方には、統一された基準がないという現状を紹介する。保育指導案の形式や内容の統一を図るため、小学校の学習指導案とも比較しながら、幼児の実態、ねらい、指導内容、活動内容、活動の経過、環境構成・教材、予想される活動、保育者の関わりと留意点から構成される形式を提唱する。内容については、ねらいと指導内容を選択、設定する基準を示し、ねらいのリストを提示する。

キーワード：保育指導案 ねらいと内容 幼稚園教育要領 保育所保育指針

保育指導案の役割と現状

保育指導案（日案とも呼ばれる）は、保育の実践に先立って作成される1日の指導計画である。指導案を作成することによって、保育者は1日の保育を通して達成したいねらいを意識し、ねらいを達成するための活動内容とその展開を想定し、ねらいと活動内容にふさわしい環境を構成するとともに教材を準備し、活動が展開される中での留意事項を前もっておさえておくことができる。このことから、指導案は、計画的、意図的な保育を展開するために不可欠なものである。

このため、保育者養成校では、各領域の指導法や保育課程論、保育内容総論などの授業、あるいは保育実習の前に指導案の作成に関する指導が行われる。

ところが、指導案の形式や、ねらい、内容にどのような事項を記入するのかなど、指導案の基本的な形式や内容は養成校によって、また、幼稚園や保育所の保育現場でも園によって異なり、形式や内容が統一されていない。養成校によっては、形式や内容が授業によって異なるケースもある。このことから、本来なら指導案に記述されるべき事項が記述されない、養成校で指導を受けた形式、内容と、実習先あるいは就職先の指導案に違いがあり、指導案

作成にとまどう、指導案の本質が理解されないまま指導案が作成されるなどの問題が生じている。指導案の本質をふまえた、統一された形式や内容が求められる。現在作成されている指導案の現状をふまえて、小学校の授業で作成される指導案とも比較しながら、望ましい指導案モデルを提示し、統一を図りたい。

現在用いられている3通りの形式

現在、保育者養成校や幼稚園、保育所で作成されている保育指導案は、細かい点まで見ると様々な形式があるが、大まかに分けると3つのタイプのいずれか一つに分類することができる。

表1 タイプ1「本日の主な活動」を中心にした保育指導案の形式

年月日 クラス名 クラスの人数 担任名			
幼児の実態			
本日の主な活動			
ねらい			
時間	活動の展開	環境構成	指導上の留意事項

タイプ1の形式は、幼児の実態、ねらい、本日の主な活動、予定時間、活動の展開、環境構成、指導上の留意事項をこの順に記入する形式であり、保育者養成校や保育の現場で現在最も多く用いられている形式である。この形式は、1956年(昭和31年)に制定され1990年(平成2年)に改定されるまでの、わが国最初の幼稚園教育要領が求めていた保育に沿ったものということができる。1956年制定の教育要領では、保育の内容として、領域別に、ねらいと多くの活動が記載され、「ねらいを達成するために保育者が適切な活動を選択、配列する」ことが求められている。いわゆる設定保育の方法である。なお、当時は、健康、社会、自然、言語、音楽リズム、絵画制作の6領域であった。1965年(昭和40年)に制定された保育所保育指針もほぼ同様の保育を求めている。保育者は、保育指導案を作成するにあたって、幼児の実態を踏まえてねらいを設定し、ねらいの達成にふさわしい活動を「本日の主な活動」として選択する。主な活動を含む1日の活動を時間設定しながら予定し、活動に必要な環境と指導上配慮すべき事柄をおさえておく。当時発行された保育雑誌でも、ほとんどが保育指導案のモデルとしてこの形式を採用している。

1990年(平成2年)に幼稚園教育要領、翌年には保育所保育指針が改定され、求められる保育がかなり大きく変化したことに伴い、後述のように、保育雑誌に紹介される保育指導案の形式も変化する。それにもかかわらず、タイプ1の形式は、保育者養成校や保育現場で用いられる形式の主流のままである。これには、次のような理由が考えられる。

① 多くの幼稚園では設定的な保育が行われており、このタイプの保育指導案は、現実に行

っている保育に即したものであること。

- ② わが国では多くの園が昭和40年代から50年代に設立されており、最初に作成した保育指導案がこのタイプであったことから、指導案といえばこのタイプという思い込みがあること。
- ③ 現在の幼稚園教育要領が求める保育の方法、およびそれに沿った保育指導案が、一部の公立幼稚園や保育所を除いてあまり浸透していないこと。

表2 タイプ2「ねらい」と「活動」を中心にした保育指導案の形式

年月日 クラス名 クラスの人数 担任名			
幼 児 の 実 態			
ね ら い			
本日の主な活動			
時間	活動の展開	環 境 構 成	指導上の留意事項

タイプ2の形式は、幼児の実態のあとに「本日の主な活動」が記載され、そのあとに活動のねらいが記載されるものである。タイプ1とは「本日の主な活動」とねらいの位置が入れ替わっているだけの違いであり、一見すると両者の間にはそれほど違いはないように思われる。

しかしながら、保育を作る基本の部分で、タイプ1とタイプ2とでは大きな違いがある。タイプ1は、ねらいを達成するための適切な活動を選択するという保育であり、タイプ2は、先に活動を決めて、その活動に見合うねらいを選択するという保育である。すなわち、タイプ1がねらい重視の保育であるのに対してタイプ2は活動重視の保育ということになる。

このタイプの保育指導案は、いまだにかなり多くの保育者養成校で用いられており、幼稚園や保育所でもこのタイプを取り入れているところは少なくない。これには次のような理由が考えられる。

- ① 1886年（明治9年）にわが国初の幼稚園が開設されて以来、1956年（昭和31年）に幼稚園教育要領が制定されるまで、わが国の幼稚園では、国の規定を含めて、少なくとも表向きには「ねらい」が存在しなかったこと。

たとえば、1899年（明治32年）に制定されたわが国初の幼稚園規定である「幼稚園保育及設備規定」では、保育の内容として、「遊嬉」、「唱歌」、「談話」、「手技」という4つの内容が示され、また、1948年（昭和23年）に制定された「保育要領」には、「見学」、「リズム」、「休息」、「自由遊び」、「音楽」、「お話し」、「絵画」、「製作」、「自然観察」、「ごっこ遊び」、「劇遊び」、「人形芝居」、「健康保育」、「年中行事」という14の内容が示されているものの、いずれにおける「ねらい」は一切示されていない。このため、保育においては、まず「何をするか」を決めるといった伝統がつけられ、今に引き継がれていると考えられる。その後、「ねらい」

を書くことは当然のこととなった後にも、まず活動から決めるというやり方がそのまま踏襲されている。

- ② 学生や保育者、とくに学生にとっては、どのような保育をするかを考えるとき、「何をするか」、すなわち活動から決めるというやり方が容易であること。

保育実習や学内の演習で、自分がする保育を考えて保育指導案を作成しなければならないとき、幼児の実態を踏まえてねらいを設定するというのは、その時々の子の姿を十分に理解していない学生や経験の浅い保育者にとっては相当困難な課題である。望ましいことではないにしても、とりあえず活動から考えてみるということになりがちである。この場合には、タイプ2の形式が用いられる。

表3 タイプ3「ねらい」と「内容」を中心にした保育指導案の形式

年月日	クラス名	クラスの人数	担任名
幼 児 の 実 態			
ね ら い			
内 容			
環 境 構 成			
予想される幼児の活動		援 助 の 要 点	

タイプ3の形式は、現行の幼稚園教育要領（1990年・平成2年改訂）および保育所保育指針（1991年・平成3年改訂）が求める保育に沿って作成される形式である。幼稚園教育要領と保育所保育指針はその後2回にわたって改訂されたが、一部の内容を除いて基本的には変更されていない。

現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針が求める保育とはどのような保育なのだろうか。

幼稚園教育要領の第1章「総則」には、次のような記述がある。

幼稚園教育は（中略）環境を通して行う。

幼児の主体的な活動を促す。

（保育者は）幼児とともに環境を構成する。

遊びを通して（中略）ねらいを総合的に達成する。

また、第2章「ねらいおよび内容」には、「ねらいとは、園生活を通して達成すべき事項であり、内容とは、ねらいを達成するために指導すべき事項である」という定義のもとに、5領域に分けられ、合計で15個のねらいと52個の内容が示されている。内容は、それまでの幼稚園教育要領では具体的な活動内容が記載されていたのに対して、ねらいの具体的な中身が記載されるようになる。

これらの記述からは、明確な保育のイメージは今一つ伝わってこないが、次のような保育が求められていると解釈することができるだろう。

保育者は、幼児の実態に沿って、身につけてほしい事項=ねらいと、ねらいを達成するために指導すべき事項=内容を設定する。ねらいと内容が達成されるために、保育者は幼児とともに意図的な環境を構成する。幼児はこの環境に関わり、主体的に活動を展開していく。それによってねらいが総合的に達成される。

この文章は抽象的で、様々な解釈が可能である。いわゆる「設定保育」が明確に否定されているわけでもない。しかしながら、一般的には設定的な保育は否定され、幼児が自主的、主体的に展開する保育が求められていると考えられている。

現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針に改定されて以降、すべての保育雑誌に掲載される保育指導案はタイプ3の形式を採用するようになる。「幼児の実態」、「ねらい」の後に、「本日の主な活動」に代わって「内容」の欄が設けられ、そこには活動名ではなく、ねらいの具体的な中身としての指導内容が記述されている。「環境構成」は内容の後に記述される。時間枠は外され、「活動の展開」が「予想される幼児の活動」となり、「指導上の留意点」ではなく「援助の要点」という言葉が用いられる。

このタイプは、幼稚園教育要領や保育所保育指針が遵守規定であることから、本来なら保育指導案はこの形式に統一されるはずである。しかしながら、現実には、現在発行されている保育雑誌のほか、多くの公立幼稚園と一部の保育者養成校で採用されるにとどまっている。

その原因として、次のようなことが考えられる。

- ・現在の、幼稚園教育要領や保育所保育指針が求める保育は、施行から25年が経過しているにもかかわらず、保育現場、とくに私立の園に浸透していない。
- ・ねらいと内容、とくに内容に何を記述したらよいのかわからない。
- ・保育者や学生にとっては、タイプ1もしくはタイプ2のほうが記述しやすい。

小学校の学習指導案

小学校の教育実習等で用いられる指導案は、一般的には表4のような形式が用いられている。

保育指導案と小学校の学習指導案には次のような違いがある。

第一に、小学校の学習指導案は「単元」が基本になっていることである。小学校の教科はいくつかの単元によって構成される。したがって、学習指導案を作成する場合にも、単元の目標と内容に沿った形で授業実施日の授業計画が作成される。これに対して、保育においては、一連の継続的な活動が展開されることはあっても、それが一つの単元として考えられることはない。なお、最近わが国でも紹介されるようになった「プロジェクト法」では、単元的な考え方が取り入れられている。そのほか、学習活動の展開過程を、導入、展開、終末の3段階に分けて記述すること、評価の観点や板書計画を示すことも、保育指導案にはない、学習指導案の特徴である。

これに対して、保育指導案ではタイプを問わず記載される「幼児の実態」が、学習指導案では記載されない。小学校では、子どもの実態に関わりなく、「いつ、何を教える」かがあらかじめ決まっている。これに対して、保育では、その時々々の幼児の育ちや興味に即してねらいや内容が設定される。さらに、保育指導案では、教材の準備にとどまらず、活動の場を含めた環境構成が重視される。環境を通して行うという保育の特徴が反映されている。

表4 小学校の教育実習等で用いられる学習指導案

学年・クラス名・教科名・指導者		
単 元	学習活動や教材を主題ごとにまとめたもの 「お話しを読んで感想を書こう (2年生国語)」 など	
指導観	単元の指導に当たっての基本的な考え方	
目 標	単元全体を通して達成する具体的な目標	
計 画	単元全体の時数および指導内容の時間配分	
本 時	授業実施日 本時の目標と指導内容	
主 眼	本時の授業の観点	
準 備	準備する教材	
段 階	学習活動と予想される子どもの反応	教師の支援と具体的な評価
導 入	各段階で予想される子どもの反応	段階ごとの、教師が支援すべき事項と評価のポイント
展 開		
終 末		
板書計画	板書する事項を図示する	

記載内容の現状

保育指導案をどのような形式で作成するかによって、それぞれに記載される内容は異なるが、幼稚園や保育所、保育者養成校、保育雑誌で統一された基準はなく、多様な記載内容となっている。とくに、幼児の実態、ねらい、内容には、明確な基準がない。現在一般的に記載されている内容とその問題点は以下のとおりである。

幼児の実態

クラスの幼児の最近の遊びの様子や、興味を持って取り組んでいること、この時期の発達の特徴などが記載される。しかしながら、最近育ち始めたこと、まだ育ちが見られないことなど、設定するねらいと内容につながる実態はほとんど記載されていない。

ねらいと内容

幼稚園教育要領と保育所保育指針には、ねらいと内容が示されており、ねらいは、幼稚園教育要領では「幼稚園修了までに育つことが期待される生きる力の基礎となる心情、意欲、態度など」、内容は、「ねらいを達成するために指導する事項」と定義され、5領域合計

で15個のねらいと52個の内容が示されている。さらに、第1章「総則」の第2「教育課程の編成」において、「第2章に示すねらいが総合的に達成されるよう、(中略)具体的なねらいと内容を組織しなければならない」と、ねらいと内容の具体化を求めている。しかしながら、設定すべき具体的な内容とはどのようなものなのか、「～ができるようになる」などのいわゆる能力目標をねらいや内容にすることは好ましくないのかなどの具体的な記述がなく、ねらいと内容にそれぞれ何を書いたらいいかわからないという状況をもたらしている。そのため、保育雑誌の指導計画モデルを見ても、「自分の気持ちを言葉で表現することを楽しむ」、「いろいろな遊びの中で十分に体を動かす」や「友達と一緒に食べることを楽しむ」など、幼稚園教育要領のねらいや内容に相当する抽象的な事項が、「内容」の欄に記載されたりする。一方、幼稚園や保育所、保育者養成校では、「〇〇遊びを楽しむ」など、活動に「楽しむ」を付けてねらいや内容とする事例が目立つ。これでは、ねらいと内容を区別して記載する本来の目的が達成されない。

本日の主な活動

この欄には、保育者が設定する主要な活動の活動名のみが書かれることが多い。しかしながら、保育のねらいや内容は、主活動だけでなく、自由遊び、朝の会、絵本読み、食事、帰りの会など、1日の活動の中で総合的に達成されるものであり、主活動だけが記載されるのは不十分である。

環境構成

環境構成の欄には、幼児が活動する空間配置が図示されるのが一般的である。幼児の活動は流動的、発展的であり、活動開始時点の環境だけでなく、活動の発展を予測し、環境の再構成として記載しておく必要がある。また、使用する教材教具の種類と数量、活動展開のどの時点で用意するのかなどの記載が求められる。

保育指導案の望ましい形式

現在作成されている保育指導案には基本的に3つのタイプがあり、タイプ1の「本日の主な活動」を中心とする形式とタイプ2の「ねらい」を中心にした形式では、保育指導案が、幼児の実態、ねらい、本日の主な活動、時間、活動の展開、環境構成、指導上の留意事項で構成される一方、保育雑誌に掲載されるタイプでは、幼児の実態、ねらい、内容、環境構成、予想される活動、援助の要点で構成されている。実際に行われている保育には、いわゆる設定保育や、環境を構成して幼児の主体的な活動を促す保育、モンテッソーリ保育、総合幼児教育研究会(総幼研)の保育など、多様な保育が展開されている。様々な保育に対応するとともに、実際の保育の展開に具体的に繋がるような、統一された形式として表5のような形式を提唱したい。

この形式の特徴は、内容を「指導内容」と「活動内容」に分けていること、活動の経過という枠を設けていること、環境構成を、「活動の場」、「教材・教具」、「環境構成の留意点」

に分けていることの3点である。この場合、ねらいは園生活全体を通して達成する事項であり、小学校の「目標」に相当する。指導内容は、その目標が達成される具体的な一步一步であり、保育雑誌に掲載されるタイプの「内容」に相当する。小学校では各教科の学年別の内容がこれにあてはまる。園生活全体を通して達成する長期的な目標とともに、具体的、短期的な目標を設定することによって、最終的な育ちの目標を明確に意識しながら、それに繋がる「今育ってほしいこと」を目指すという、ねらいを意識した、ねらいを達成するための保育を可能にするものである。

保育雑誌に掲載されるタイプには、その日幼児は何をするのかという、活動に関する枠が設けられておらず、「予想される幼児の活動」の記載を見てなんとなく見当がつくという形になっている。幼児はあくまでも活動を通して成長するのであり、環境構成や教材の準備、指導・援助すべき事柄の予測のためにも、活動が想定されていなければならない。その場合、いわゆる本日の主な活動だけでなく、自由遊び、朝の会、食事、帰りの会など、1日を通した活動を記入しておくことが望ましい。

具体的な記載内容については、後述する。

表5 保育指導案の望まれる形式と記載事項

年月日・クラス名・クラスの人数・担任名		
幼 児 の 実 態		
ね ら い		
指 導 内 容		
活 動 内 容		
活 動 の 経 過		
活動の場	教材・教具	環境構成の留意点
時間	予想される幼児の活動	保育者の関わり・留意点

それぞれの欄に記載されるべき内容

今回提示した保育指導案の各欄に記載されるべき事項について、とくに、これまで明確な指針がなかった、幼児の実態、ねらい、指導内容と、新たに加えた活動の経過について、記入するにあたっての指針を示す。

1) 幼児の実態

幼児の実態は、主として3つの姿を中心に記述する。

- ① クラス全体の最近の姿、なかでもクラスの間関係や、興味を持って取り組んでいる遊びなど。
- ② ねらいと内容にかかわる幼児の姿。この場合には、ねらい、内容にかかわる姿が見られるようになった」という場合と、「まだほとんど見られない」という場合の2つのケー

スが考えられる。

③ 発達の遅れや障害のある幼児を含めて、配慮や支援が必要な幼児。

2) ねらい

幼稚園教育要領と保育所保育指針には、ねらいと内容が記載されている。本来なら、保育指針のねらい及び指導内容の欄には、これらのねらいと内容の中から選択することになる。しかしながら、幼稚園教育要領と保育所保育指針に記載されているねらいと内容は、「身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感を持つ（人間関係）」、「身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ（環境）」など表現が抽象的で、保育指針のねらいとしてはふさわしくない。むしろ、内容として示されている「友達とのかかわりを深め、思いやりを持つ」、「自分でできることは自分でする」、「自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く」などをねらいとするほうが具体性があり、保育の中で保育者が育ちを期待する事項とも一致する。これらはいずれも、入園から卒園までの園生活全体を通して達成される事項であり、ねらいとしての条件を備えている。

そこで、保育指針のねらい欄には、幼稚園教育要領と保育所保育指針の内容として記載されている事項を記載する。ただ、幼稚園教育要領と保育所保育指針の内容には、活動への意欲や感謝の気持ち、心の強さなど、いくつかの重要な内容が欠落している。また、心情や態度に限定された内容であり、能力の育ちに関する内容はほとんどない。そこで、田中(2014)は、幼稚園教育要領と保育所保育指針の内容に、能力の育ちに関する事項を含めた、必要と思われる内容を加え、合計66項目を「総合領域」、「健康な体」、「人との関わり」、「環境とのかかわり」、「言葉とコミュニケーション」、「感性と表現」の6領域に再編成している。ねらいの欄には、この中から選択して記載する。なお、保育指針に記載するねらいは、最大3項目以内にとどめたい。

表6 保育指針のねらい欄に記入するねらい候補の一覧

<p>1. 総合領域</p> <p>(1) 明るく、安定感をもって、毎日を元気に生活する。</p> <p>(2) いろいろな活動に、意欲的に取り組む。</p> <p>(3) 感謝の気持ちを持つ</p> <p>(4) 自分に自信を持つ。</p> <p>(5) しなければならないこと、自分のしたことに責任を持つ。</p> <p>(6) 様々なことに挑戦し、最後までやりとげようとする。</p> <p>(7) 自分でできることは自分でする。</p> <p>(8) 自分で考えて行動する。</p> <p>(9) したいこと、欲しいものがあっても、状況を考えて我慢する。</p> <p>(10) つらいことや苦しいことを乗り越えようとする。</p>
--

- (11) 物や環境を大切に作る。
- (12) 豊かな感覚を身につける。
- (13) 日常生活に必要な技能を身につける。
- (14) 体験したことや物をイメージし、考えたり、表現したりする。

2. 健康な体

- (1) いろいろな運動遊びに親しみ、喜んで運動する。
- (2) 遊びや生活の基礎となる、体力や運動能力を身につける。
- (3) 生活の仕方が分かり、健康で快適な生活の場を作ろうとする。
- (4) 健康な生活のリズムを身につける。
- (5) 食べる楽しさを味わい、食べることの大切さがわかる。
- (6) 衣服の着脱、清潔、食事、排せつなどの生活習慣を身につける。
- (7) 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。
- (8) 危険な場所、危険な行動が分かり、気をつけて行動する。
- (9) 災害時の行動の仕方が分かる。

3. 人との関わり

- (1) 先生や友達とともに過ごすことの喜びを味わう
- (2) 年少児や、支えが必要な人の気持ちを理解し、支えようとする
- (3) 高齢者に親しみ、敬いの気持ちを持つ。
- (4) 先生や親に対して尊敬の気持ちを持つ。
- (5) 友達と積極的にかかわり、喜びや悲しみを共感し合う。
- (6) 自分の思いを相手に伝え、相手の思いに気づく。
- (7) お互いの良さに気づきながら、友達と一緒に活動することを楽しむ。
- (8) 共通の目的をもって友達と協力し、自分の役割を果たそうとする。
- (9) 思いやりの気持ちを持つ。
- (10) 良いこと、悪いこと、正しいこと、間違っていることに気づき、考えながら行動する。
- (11) 決まりや約束の大切さに気づき、守ろうとする。

4. 環境とのかかわり

- (1) 自然の持つ不思議さ、面白さ、美しさなどに気づく。
- (2) 身近な動植物に親しみ、命の大切さに気づいて、いたわったり大切にしたりする。
- (3) 身近な出来事や情報、施設に関心を持つ。
- (4) 国や地域の伝統や文化に興味を持ち、行事などに喜んで参加する。
- (5) 異なる国や地域の人の生活、文化、言葉などに興味を持つ。
- (6) 数量や図形などに関心を持ち、感覚を豊かにする。
- (7) 季節により、人の生活や自然に変化があることに気づく。
- (8) 身近な事物を遊びや生活に取り入れる。
- (9) いろいろな仕事に興味を持ち、自分の生活と仕事との関係に気づく。
- (10) 様々な事象の性質や仕組みに関心を持ち、試したり発見したりする。
- (11) うまくいくように、自分なりに工夫する。

(12) わからないことは、自分なりに考えたり、尋ねたり、調べようとする。

5. 言葉とコミュニケーション

- (1) 先生や友達の話に興味を持ち、話したり聞いたりする。
- (2) 見たこと、聞いたこと、思ったことなどを、自分なりに言葉で表現する。
- (3) 相手に分かるように話す。
- (4) 人の話を集中して聞く。
- (5) 親しみを込めて日常のあいさつをする。
- (6) 生活に必要な言葉を身につける。
- (7) 言葉の面白さ、楽しさ、美しさに気づく。
- (8) いろいろな体験を通して、言葉を豊かにする。
- (9) 絵本や物語に親しみ、興味を持って聞き想像する楽しさを味わう。
- (10) 物語を想像したり、発展させたりすることを楽しむ。
- (11) 文字や標識に関心を持ち、文字などで伝える楽しさを味わう。

感性と表現

- (1) 様々な音、色、形、動きなどに興味を持ち、感じ取ろうとする。
- (2) 生活の中で、美しいものや心を動かす出来事に触れ、感動することができる。
- (3) 感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- (4) いろいろな人の表現に興味を持ち、その特徴や良さを感じ取ろうとする。
- (5) 感じたこと、感動したこと、考えたことを、自分なりの方法で表現する。
- (6) いろいろな表現の素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- (7) 音楽に親しみ、歌ったり楽器を使ったりする楽しさを味わう。
- (8) 描いたり作ったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。
- (9) 自分のイメージを言葉で表現したり、演じて遊んだりする楽しさを味わう。

3) 指導内容

指導内容は、それぞれのねらいに関して幼児が一步一步成長していく姿であり、その時々
の具体的なねらいである。すなわち、たとえば「思いやりの気持ちを持つ」というねらいで
あれば、

年少児

- ・友達がけがをしたり、何かのトラブルがあったときは心配し、先生に告げる。
- ・友達がしてほしいことに気づき、してあげる。
- ・友達や先生が困っていると、助けてあげようという気持ちを持つ。
- ・自分の遊び仲間に入れてあげようとする。
- ・ほかの友達に、自分のものを分けてあげようとする。

年中児

- ・友達のものなくなったとき、一緒に探してあげようとする。
- 自分が使っているものや自分のものを、友達に貸したり、分けてあげようとする。

- ・悲しんでいる子供を慰めようとする。
- ・当番の仕事など、友達のためにしてあげることを楽しむ。
- ・グループ活動で、別のグループを加勢しようとする。
- ・会話の少ない幼児に、自分のほうから話しかけようとする。
- ・泣いている友達のことを心配したり、声をかけたりする。
- ・欠席している友達のことを心配する。

年長児

- ・捕まえた虫や集めた木の実を、見つからなかった幼児、年少の幼児に分けてあげる。
- ・自分から積極的に、友達の手助けをしようとする。
- ・話し合いで、意見が言えない幼児の発言を待つてあげようとする。
- ・お休みしていた幼児が登園してくると、休んでいた間のことを教えてあげようとする。
- ・木の実や落ち葉の採集に行き、休んでいる友達の分も持って帰ってあげようとする。
- ・木の実拾いで、見つけた木の実を全部持ちかえらずに残しておこうとする。
- ・仲間に入れられない幼児、一人遊びをしている幼児に声をかけ、仲間に入れようとする。

ねらいと指導内容は必ず対応させて記載する。一つのねらいに複数の内容が設定されることもあるので、ねらいと指導内容には共通の番号を付しておくとうわかりやすい。

これ以外のねらいに対応する指導内容については、田中（2014）を参照していただきたい。

ねらいは幼児の年齢に伴って変化することはないのに対して、指導内容は発達の的に変化する。

4) 活動内容

活動内容は、「本日の主な活動」として記載される場合には、〇〇遊び、〇〇作りなど、主活動のみが記載されることが多い。しかしながら、自由遊びや朝の会、給食、絵本読みなど、主活動以外の活動でねらいや内容が達成されることもあり、活動内容の欄には、これらの諸活動を列記しておくことが望ましい。幼稚園教育要領と保育所保育指針が求めるような、幼児が環境に関わり主体的に活動を展開していく保育において、複数の活動が予想される場合には、予想されるすべての活動を記載する。

5) 活動の経過

本時の活動を中心に、その活動に至るまでの経過と、これからの発展について記載する。小学校の「単元」とは異なり、長期間にまたがった断続的な経過をたどる場合もある。たとえば、本時の活動が、「秋の公園で木の実や木の葉を採集する」であれば、次のような経過となる。

表7 活動の経過記載例

活動の経過
木々の芽吹きを観察する（4月） 緑色の木々の葉を観察する（6月） 園内の紅葉した木々を観察する（前日） 公園で木の実や木の葉を採集する（本時） 採集した木の葉や木の実を観察したり分類したりする（翌日） 木の実や木の葉を使って、服を作ったり、保育室の飾りつけをする（2日後） ファッションショーをする（3日後）

プロジェクト型の保育においては、最終的な活動に至るまで活動の経過を連続的に記載する。

6) 環境構成

環境構成は、活動の場、教材・教具、環境構成の留意点に分けて記載する。

活動の場は、幼児が活動する空間を図で示したものである。環境構成の留意点として、「幼児の活動の発展に応じて、幼児とともに環境を再構成する」、「教材は少なめに用意しておく」、「最初から用意する教材は○○、幼児の要求に応じて出す教材は△△とする」などを記載する。

本論文では、保育指導案の形式や内容の統一を目指して、幼稚園や保育所、保育者養成校で用いられている保育指導案の形式と内容の実態およびその問題点を指摘し、望ましい形式と内容のモデルを提示した。

今後は、幼稚園や保育所の保育者や学生に、今回提示した保育指導案の形式と内容に沿って指導案を作成してもらい、その評価結果をもとに、書きやすさや有効性について検証していきたい。

文 献

幼稚園保育及設備規定 1899 文部省令 第32号

幼稚園教育要領（初版）1956 文部省

改定幼稚園教育要領 2008 文部科学省

保育所保育指針 1965 厚生省

改定保育所保育指針 2008 厚生労働省

年齢別 年の計画 2014 月間保育とカリキュラム4月号特別付録 ひかりのくに

田中敏明 2014 幼稚園・保育所 指導計画作成と実践のためのねらいと内容集 北大路書房

田中敏明、金丸智美 保育雑誌に掲載される年間指導計画の分析 2012 教育実践研究 第20号P.155-161 福岡教育大学教育実践センター

The Consideration about the Form and Contents of the Daily Program of Kindergarten.

— For the Unification of the Daily Program —

Toshiaki TANAKA*¹. Ayako ANDO*²

*¹Kyushu Women's Junior College, Department of Childhood Care and Education

*²Nakatu City Imazu Elementary School.

Abstract

Although there are many types of form and contents with respect to the daily program of kindergarten, they can be categorized three types. We consider about the feature, good point, weak point and historical background. Even more we introduce the present situation that kindergarten's reality, educational purpose and contents which were written in the program have not a unified standard. To unify the style and contents we propose the model program composed with children's reality, educational purpose, contents of teaching, contents of children's action, composition of environment, teaching materials, expected action, teacher's direction and attention point of the direction. And we show the list of educational purpose.

Key words : educational program kindergarten unification